

青森県津軽地方および南部地方における豆類・ 雑穀類在来品種の探索収集

勝田真澄¹⁾・友岡憲彦¹⁾・根本英男²⁾・横田一郎²⁾

1) 農業生物資源研究所・遺伝資源第一部・植物探索評価研究チーム

2) 農業生物資源研究所・企画調整部・業務科

Exploration for Grain Legumes and Millets in Aomori Prefecture

Masumi KATSUTA¹⁾, Norihiko TOMOOKA¹⁾, Hideo NEMOTO²⁾,
and Ichiro YOKOTA²⁾

1) *Laboratory of Plant Genetic Diversity, Department of Genetic Resources I,*

2) *Farm Management Division, Department of Research Planning and
Coordination, National Institute of Agrobiological Resources, Tsukuba,
Ibaraki 305, Japan*

Summary

The exploration for crop landraces in Aomori Prefecture was conducted from October 17th to 21st, 1994. In Aomori prefecture, the Tsugaru and Nanbu regions were isolated from each other for a long time, and the difference in climate of each region may affect the growth characteristics of local cultivars. Distinct landraces are expected in these two regions. The areas where we explored were Souma-mura, Nishimeya-mura and Fukaura-machi in Tsugaru region and Shingou-mura, Sannohe-machi, Nagawa-machi and Karumai-machi (Iwate) in Nanbu region. A total of 66 samples were collected.

As for food legumes, 23 samples of soybean (*Glycine max*), 17 samples of common bean (*Phaseolus vulgaris*), 3 of scarlet runner bean (*Phaseolus coccineus*) and 13 of azuki bean (*Vigna angularis*) were collected. Most farmers still grow soybean landraces for home consumption. In Tsugaru region, the pubescent soybean variety which is named as "Ke-mame" (which means hairy bean) is the most common variety. It is characterized by slightly green seed color and large grain. Additionally, a late soybean variety "Yukinoshita-mame" (which means bean matured under snow) and an early soybean variety "Bon-mame" (which means bean used during the Buddhist Bon festival held in the middle of August), which are also the landraces in Tsugaru region, were collected. In Nanbu region, farmers are growing two types of soybean

varieties. The black seeded variety is called “Kuromame” (which means black bean) or “Kurodaizu” (which means black soybean) and green seeded variety is called “Aomame” (which means green bean) or “Aodaizu” (which means green soybean). As for common bean, viny (called “teari”) and non-viny (called “tenashi”) types were collected. They showed white, red, brown or mottled seed color. Most azuki bean varieties showed red colored seed and their pod color were black, white or heterogeneous (black and white mixed). Various kinds of samples were collected from some farmers who are keen to conserve their cultivars.

Millet has almost disappeared from every villages. Only at the border area of Aomori and Iwate prefecture, we could collect three samples of common millet (*Panicum miliaceum*). They were called as “Awa”, which is usually used as a name for foxtail millet in Japan.

In addition, one sample of chinese mustard (*Brassica napus*) used as a vegetable, 3 of buckwheat (*Fagopyrum esculentum*) and 3 of perilla (*Perilla frutescens*) were collected.

These samples (original seeds) are maintained at the Laboratory of Plant Genetic Diversity and part of them are evaluated, propagated and stored for distribution in NIAR.

KEY WORDS : local varieties, legume, millets, exploration, genetic resources, Aomori prefecture

1. 目的

青森県は本州最北部に位置し、冷害が頻繁に発生するなかで作物が栽培されてきた。また、明治以前には別の藩に属していた日本海側の津軽地方と太平洋側の南部地方は、文化的にも気候的にも大きく異なる地域として常に対比して語られる。津軽地方は、冬は積雪が多い。夏の日照は多く、稲作が中心であった。南部地方は、ヤマセによる冷害で作物の生産は安定せず、畜産や畑作中心の農業が行われ、山間地では雑穀や豆類の栽培が一般的であった。このように、青森県津軽・南部両地域の農業はそれぞれ異なった特徴をもっており、独自の作物在来品種が栽培されていたと考えられる¹⁾。

植物探索評価研究チームでは、1991年から東北地方における遺伝資源の探索収集を行っている。1991年は岩手県南部と山形県、1992年には秋田県および山形県において探索を実施した。これらの地域では、主としてダイズ・アズキなどの豆類や、アワ・エゴマなどを収集した。しかし、在来品種の栽培は急速に減少しており、東北地方における調査を継続し、早急に遺伝資源の収集を行う必要があると考えられた^{2), 3)}。

本年度は、東北地方における未調査地域である青森県において、作物在来品種の栽培状況を調査し種子の収集を行った。

2. 調査方法

調査は、1994年10月17日から21日まで実施した (Table 1)。青森県内における在来品種の栽培状況を広く把握するために、津軽地方と南部地方の中で、在来品種の栽培が比較的多く

Table 1 Itinerary of the exploration in Tsugaru and Nanbu regions of Aomori prefecture
青森県津軽地方および南部地方における探索の日程

月日	行動内容	行程
1994年		
10月17日(月)	移動	つくば——(常磐道)(東北道)——黒石——弘前
10月18日(火)	津軽地方を探索	弘前——相馬——西目屋——鯨ヶ沢——深浦——鯨ヶ沢
10月19日(水)	南部地方を探索	鯨ヶ沢——五所川原——十和田湖——新郷——三戸
10月20日(木)	南部地方を探索	三戸——名川——軽米——南郷——八戸
10月21日(金)	移動	八戸——(東北道)(常磐道)——つくば

注：表中太字の地名は収集を行った地域を示す

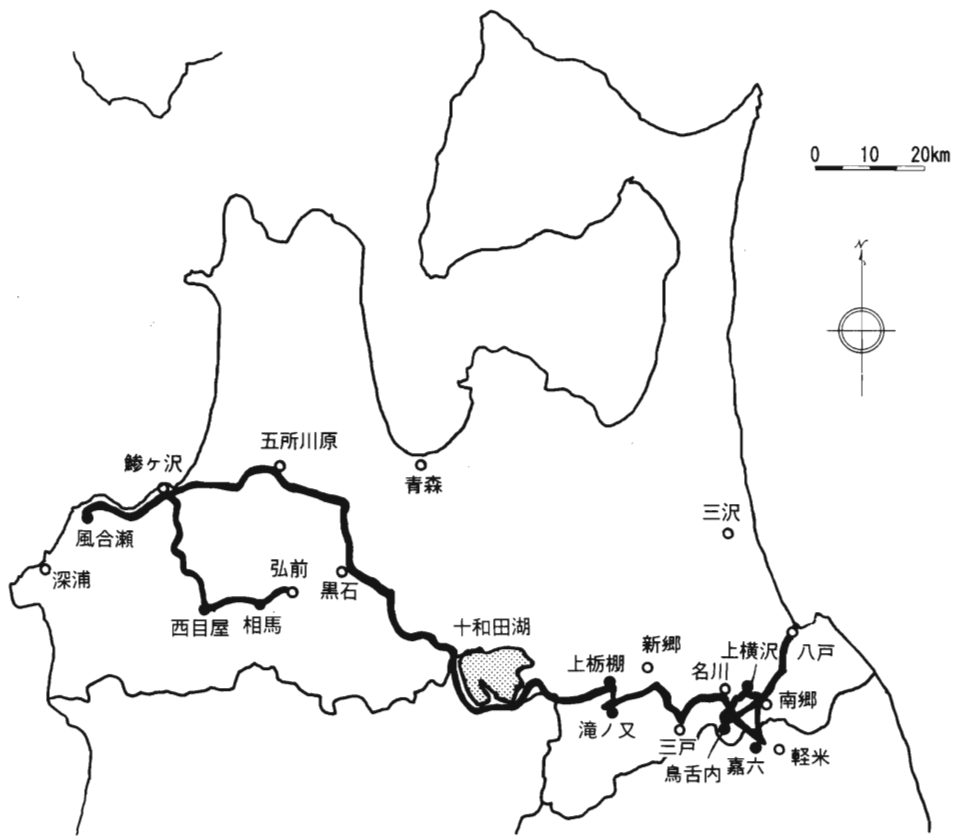


Fig. 1 Exploration route (● : collection site)
探索のルート (● : 収集地点)

残ると思われる地域で調査を行うことにした。津軽地方では、秋田県境に近い内陸部の相馬村、西目屋村と日本海に面した深浦町を、南部地方では山間地である新郷村、三戸町、名川町および県境に近い岩手県軽米町で調査を行った（Fig. 1）。青森県内では、1989年および1990年に青森県農試と北海道立遺伝資源センターが遺伝資源の調査収集を行っている⁴⁾。今回はこの調査地域と重複しない集落を選び、各地区2、3集落の農家を訪問して在来品種の栽培状況についての聞き取りを行った。可能な場合は種子の分譲を受けた。

3. 調査地域の概要と在来品種の栽培状況

①津軽地方

弘前市の南西にある相馬村、西目屋村では、岩木川上流の川沿いの集落で調査を行った。相馬村藍内地区はリンゴの栽培が中心で、リンゴ畑の一角の小面積の畑に自家用のダイズやアズキを栽培していた。ダイズは、津軽の在来品種である“ケマメ”、“ユキノシタマメ”、“ボンマメ”などが比較的多くの農家で栽培されていた。味が良いという理由で枝豆・味噌・豆腐・煮豆などに利用されていた。

西目屋村川原平のある農家は、多様な品種の維持に興味を持ち、ダイズ、アズキ、インゲンマメなど、それぞれ在来品種を含めて数種類ずつを栽培していた。

深浦町は、日本海沿いの海岸に集落が点在している。風合瀬地区では海岸の高台に畑が耕作され、ダイズ、インゲン、アズキの他、エゴマ、ソバ、ナタネなど、多種類の作物の在来品種を栽培していた。ナタネは花菜用に栽培されていた。

②南部地方

十和田湖の南東から岩手県境に沿った山間地域で調査を行った。新郷村では、村の特産品として売店で雑穀を販売していたが、実際に雑穀を栽培する農家を見出すことはできなかった。調査を行った上柵棚は水田地帯で、ダイズ、アズキ、ソバ、インゲンマメを自家消費用に栽培していた。三戸町滝ノ又では、山腹の傾斜地にある小面積の畑でダイズ、アズキ、エゴマなどが栽培されていた。

県境に接した青森県三戸郡名川町と岩手県軽米町では、アズキ、ダイズ、インゲン、キビなどを収集した。名川町下名久井のある農家はダイズやインゲンを多品種栽培しており、特に多彩なインゲンの種子を収集できた。この農家は自家消費用に栽培するだけでなく、系統維持を目的にした栽培もしていた。しかし、豆類以外の在来品種の栽培はほとんど行われていなかった。雑穀類の栽培は非常に少なく、軽米町嘉六と名川町烏舌内の農家が、キビを“アワ”という呼称で栽培していた。この地区では、軽米町観音林に雑穀の糖精を請け負う業者が在り、近在の農家ではキビが栽培されているという。しかし、軽米町で栽培されていたのは、新郷村西越から譲り受けた種子であり、名川町でも“新しいアワ”などと呼ばれていたことから、これらの種子が近年外部から再導入された物である可能性がある。

4. 収集品の特徴

収集したのは、ダイズ23点、アズキ13点、インゲンマメ17点、ベニバナインゲン3点、エゴマ3点、ソバ3点、キビ3点、ナタネ1点の計66点である (Table 2)。

Table 2 Samples collected in Tsugaru and Nanbu regions of Aomori prefecture
青森県津軽地方および南部地方で収集した在来作物の内訳

作物種名 Crop name	津軽地方 Tsugaru region	南部地方 Nanbu region	合計 Total
ダイズ (<i>Glycine max</i>)	11	12	23
アズキ (<i>Vigna angularis</i>)	5	8	13
インゲンマメ (<i>Phaseolus vulgaris</i>)	10	7	17
ベニバナインゲン (<i>Phaseolus coccineus</i>)	2	1	3
エゴマ (<i>Perilla frutescens</i>)	1	2	3
ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i>)	1	2	3
キビ (<i>Panicum miliaceum</i>)	0	3	3
ナタネ (<i>Brassica napus</i>)	1	0	1
全収集品 (Total samples)	31	35	66

津軽地方で収集した“ケマメ”は、莢に褐色の剛毛が多く、緑色・大粒・黒目種子のダイズ品種である (940003, 940019)。味が良いという理由で多くの農家が栽培していた。5月に播種して、10月中旬に収穫し、枝豆・味噌・豆腐・煮豆に利用されている。“ユキノシタマメ” (940004) は“ケマメ”に似た緑色・大粒品種であるが、臍は白で、収穫期は11月中旬の晩生品種である。“雪の下で実る”が呼称の由来らしい。お盆の供物に使われる早生のダイズ品種は“ボンマメ” (940022, 940026) と呼ばれていた。黄色・中大粒・褐目の種子で、4月から5月にかけてトンネルなどに播種し、8月中旬に収穫して枝豆として利用される。

一方、南部地方では津軽地方ほど多様な呼称のダイズ品種はなく、緑色と黒色種子の品種を一点ずつ栽培する農家が多かった。“クロマメ” (940035, 39, 41, 52), “クロダイズ” (940045) と呼ばれる黒色・大粒・丸粒の品種は、10月中旬から下旬に収穫し、煮豆・枝豆用に栽培されていた。三戸町貝守の農家では、10月中旬に収穫するクロマメ品種 (940039) と、特に大粒で種皮に不定形の亀裂がある晩生 (10月下旬収穫) のクロマメ品種 (940041) を栽培していた。緑色種皮の品種は“アオマメ” (940036, 53, 56), “アオダイズ” (940046) と呼ばれ、10月中・下旬に収穫する。新郷村で収集した“アオマメ”は淡黄緑色の種子で他の地域のアオマメとは異なる種皮色であった。名川町下名久井の農家では、昔から栽培している淡褐色の緑色品種 (940056) に加えて種皮色の濃い緑色品種 (940053) を近所から入手し種子を維持していた。青大豆の利用方法は多様で、枝豆・豆腐・黄粉・しとぎ (米粉と大豆粉を混ぜたモチ) ・ずんだ (荒くつぶした餡) などにするほか、肥料としても利用していた。しかし、粒型は全て丸粒で、これまでに北関東や東北地方南部で収集したような浸し豆にする偏平粒の品種は栽培されていなかった。

インゲンマメは“ササゲ”と呼ばれ、蔓の有無や、種皮の色や紋様、種子の形などが異な

る品種を収集した。特に、多様な品種の維持に興味を持っていた津軽郡西目屋村や三戸郡名川町の農家では、それぞれ数種類の品種を収集した。種皮色は白(940010, 13, 24, 25, 47, 50, 60, 62)・赤(940009, 11, 12, 28, 51)・ベージュ(940015, 59)・黒条斑ベージュ(940014, 32, 61)で、粒型には丸粒・長粒、腎臓形・球形、中粒・大粒があった。用途は、若莢食や煮豆である。ペニバナインゲンは3ヶ所で収集できたが、いずれも白種子と紫斑種子の2種類を混ぜて栽培していた(940001, 27, 58)。

アズキは、ほとんどの農家が赤種皮の1品種だけを栽培していたが、灰色には白(940037, 55), 黒(940040)や混(940008, 940030)があった。深浦町で収集した品種(940030)は、白莢に比べて黒莢の個体の熟期が4~5日早いということであった。名川町下名久井では、かつて中生や早生の品種も栽培していたというが、現在は白莢の晩生品種(940055)だけを栽培していた。混ざりとして黒莢の個体(940057)も収集した。西目屋村の農家では3種の小豆を収集した。カシアズキ(940018)と呼ぶ暗赤色種皮の品種は、餡の歩留まりが良いという理由で栽培し、シロアズキ(940016)は、北海道から譲り受けたものであった。

エゴマは、津軽地方では“ツブアブラ”と呼ばれ、深浦町で収集したものは種皮色が白と黒の混ざりであった(940023)。南部地方では、“ジュウネ”と呼ばれ、収集したのは白種子(940038, 49)であった。

キビは業者委託して糠精し、米に混ぜて食べる。岩手県軽米町で収集したキビ(940044)は種皮色が淡褐色で、青森県名川町で収集した種子は(940063, 65)茶褐色であった。

5. 所感

豆類については、自家用に在来品種を栽培する農家が比較的多かった。津軽地方では呼称の違うさまざまなサイズの在来品種が栽培されていた。一方、南部地方では、利用法は多様であるが、品種の変異は小さかった。津軽地方と南部地方ではそれぞれ独自の品種を栽培しており、両地方に共通の呼称を持つ品種は無かった。

その他の作物については、一般の農家における在来品種の栽培は激減していた。特に雑穀類は、予想を越えてほとんどの地域ですでに栽培が途絶えていた。唯一、キビを収集できた名川町や軽米町の農家は、近くに糠精業者が在るという理由でキビを栽培していた。アワ・キビなどの精白機をもつ業者が少なく、収穫物の精白ができないうちに雑穀を栽培しなくなる農家も多かった。生産物を利用できる条件が整うことも、雑穀の栽培が続いてゆくための重要な要因の一つであることを示している。

通常、農家が栽培する在来品種はほとんどが自家消費用である。食習慣の変化によって食膳に上ることが無くなり、失われていった在来品種も多い。ところが、今回の調査で出会った西目屋村川原平の西川クレ氏や名川町下名久井の助川ヨシ氏は、畑の一角で系統維持の為の採種をしていた。聞き取り調査の中でも、「種を絶やすことはしない」という話があり、在来品種の維持に対する意識が高い農家が存在していることを知った。

今回の調査で収集した種子は、これまでに東北各県で収集した在来品種と併せて、東北地

方における在来品種の特性を明らかにするための材料として評価を進めるとともに、増殖を行う予定である。

6. 謝辞

我々の突然の訪問に対しても、調査に快く協力して下さった農家の方々にこの場を借りて心から感謝申し上げます。訪問した農家の方々には在来品種の栽培についての詳しい説明をしていただいた上に、貴重な種子を分譲して頂きました。これらの方々の協力によって有意義な調査を行うことができました。

青森県農試水田利用部・西沢登志樹主任研究員には、青森県内における在来品種の栽培状況についての情報と、調査地選定にあたって多くの助言を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

7. 参考資料

- 1) 秋田義信 (1994) 津軽気質・南部気質—対象と共通性—, “青森県農村近昔”, 秋明社, 青森. 122-128
- 2) 勝田真澄・長峰司・佐藤喜美雄 (1991) 岩手・山形県における作物在来種の探索収集. 植物遺伝資源探索導入調査報告書 (農業生物資源研究所編) 8 : 21-31
- 3) 江川宜伸・竹谷勝・萩原均・佐藤喜美雄・白田和人 (1992) 秋田県南部・山形県北部における豆類遺伝資源の収集. 植物遺伝資源探索導入調査報告書 (農業生物資源研究所編) 9 : 9-16
- 4) 北海道立植物遺伝資源センター (1991) 植物遺伝資源探索・導入成績書, 北海道立植物遺伝資源センター. pp. 102

Table 3 A list of plant materials collected in Aomri and northern part of Iwate prefecture

青森県および岩手県北部における収集品リスト

収集番号	学名	呼称	収集情報	収集地、標高(m)	作期	用途	現地主要特性	農家名
NC940001	<i>Phaseolus coccineus</i>	—	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字五所字黒滝, 35m	?~10中	—	支柱, 草丈2m, 白, 紫斑種子混	—
NC940002	<i>Glycine max</i>	ダイズ	農家貯蔵	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字間ヶ平, 125m	5上~9下	みそ, とうふ	白種子, 白目, 農協より入手	佐々木武雄
NC940003	<i>Glycine max</i>	ケマメ	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字羽根山, 90m	5~10中	煮豆	緑種子, 白目, 美味, 津軽の在来	今ミヨ
NC940004	<i>Glycine max</i>	ユキノシタマメ	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字羽根山, 90m	5~11中	枝豆	緑種子, 白目, 草丈高い, 晩生	今ミヨ
NC940005	<i>Glycine max</i>	—	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字薬師堂下, 75m	?~10中	—	黄種子, 大粒	—
NC940006	<i>Glycine max</i>	—	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字薬師堂下, 75m	?~10中	—	黒種子, 黒目, 扁平粒	—
NC940007	<i>Glycine max</i>	—	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字薬師堂下, 75m	?~10下	—	緑種子, 黒目	—
NC940008	<i>Vigna angularis</i>	—	農家圃場	青森県中津軽郡相馬村大字藍内字薬師堂下, 75m	?~10中	—	白, 黒黄混	—
NC940009	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下	煮豆, 赤飯	つるなし, 白種子	西川クレ(徳一)
NC940010	<i>Phaseolus vulgaris</i>	シロイササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下	煮豆	つるなし, 赤種子	西川クレ(徳一)
NC940011	<i>Phaseolus vulgaris</i>	シロイカタツキササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下	煮豆, 赤飯	つるなし柔らかい, 白地赤斑種子	西川クレ(徳一)
NC940012	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下	煮豆, 赤飯	つるなし, 赤種子, やや大粒, 今年近所でもらった	西川クレ(徳一)
NC940013	<i>Phaseolus vulgaris</i>	シロイササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5/7(3回)~8下/10中	美食	つるあり, 白種子, 細長粒, 順次収穫	西川クレ(徳一)
NC940014	<i>Phaseolus vulgaris</i>	メンコササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5/7(3回)~8下/10中	美食	つるあり, ベージュ黒斑種子, 幅広扁平粒, 順次収穫	西川クレ(徳一)
NC940015	<i>Phaseolus vulgaris</i>	チャササゲ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5/7(3回)~8下/10中	美食	つるなし, ベージュ種子, 細長粒, 順次収穫	西川クレ(徳一)
NC940016	<i>Vigna angularis</i>	シロアズキ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下/9	あん, 着色した赤飯	北海道より入手, あんの色は白	西川クレ(徳一)
NC940017	<i>Vigna angularis</i>	アケアズキ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下/9	あん	赤種子, 赤いアズキの意	西川クレ(徳一)
NC940018	<i>Vigna angularis</i>	カシアズキ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~8下/9	あん	暗赤色種子, 歩留まり良い	西川クレ(徳一)
NC940019	<i>Glycine max</i>	ケマメ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~10中	枝豆, とうふ, みそ	緑種子, 黒目, 莢に褐色の剛毛, 最も美味	西川クレ(徳一)
NC940020	<i>Glycine max</i>	シロイマメ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~10中	とうふ, みそ, 枝豆	黄種子, 白目, 中生のボンマメといわれ入手したが晩生だった	西川クレ(徳一)
NC940021	<i>Glycine max</i>	クロマメ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~10中	系統維持	裂皮する黒種子, 黒目, 種子を飽やさないために栽培	西川クレ(徳一)
NC940022	<i>Glycine max</i>	ボンマメ	農家貯蔵	青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡, 180m	5中~/6~9	枝豆	お盆にお墓に供える, 黄種子, 褐色目, 早生	西川クレ(徳一)
NC940023	<i>Perilla frutescens</i>	ツバアブラ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	5中~10下	炒つてすり山菜, テンゴサとみそで和える	白, 黒種子混	山本ツエ
NC940024	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	4中~6から順次	美食	つるなし, 白種子, まが玉粒, 春先強風ゆえトンネルに播く	山本ツエ
NC940025	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	4中~/9/10	煮豆	白種子, 馴の上黒条, 丸粒, トンネルに播く	山本ツエ
NC940026	<i>Glycine max</i>	ボンマメ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	4中~/8中	枝豆	黄種子, 褐色目, お盆に供える, トンネルに播く	山本ツエ
NC940027	<i>Phaseolus coccineus</i>	オオキイササゲ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	—	煮豆	白種子, 紫斑種子混	山本ツエ
NC940028	<i>Phaseolus vulgaris</i>	キントキ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	4中~/10	煮豆	赤種子	山本ツエ
NC940029	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	8中~/10中	そばがき, 塩あんのおやき	—	山本ツエ
NC940030	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	5下/6上~10中	—	白黒黄混, 黒莢は4~5日早生	山本ツエ
NC940031	<i>Brassica napus</i>	ナタネ	農家貯蔵	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字中砂子川78-10, 65m	—	花菜	—	山本ツエ
NC940032	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県三戸郡新郷村大字平井字上柳棚, 260m	?~10下	—	ベージュ地茶条斑種子	—
NC940033	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	青森県三戸郡新郷村大字平井字上柳棚, 260m	5~10上	赤飯, あん	赤種子	田沢シミ
NC940034	<i>Fagopyrum esculentum</i>	そば	農家貯蔵	青森県三戸郡新郷村大字平井字上柳棚, 260m	8/20~10中	ソバ, そばはっと, そばもち, そばがき	今年近所から入手	田沢シミ
NC940035	<i>Glycine max</i>	クロマメ	農家貯蔵	青森県三戸郡新郷村大字平井字上柳棚, 260m	5~10下	正月の煮豆, 枝豆	黒種子, 黒目, 丸粒, 白ダイズより早生	田沢シミ

収集番号	学名	呼称	収集情報	収集地、標高 (m)	作期	用途	現地主要特性	農家名
NC940036	<i>Glycine max</i>	アオマメ	農家貯蔵	青森県三戸郡新郷村大字平井字上柳瀬, 260m	5~10下	枝豆, とうふ, きなこ	淡黄緑種子, 淡褐色	田沢シミ
NC940037	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	?~10中	赤飯, あん	白莢, やや大粒	滝沢フジヨ
NC940038	<i>Perilla frutescens</i>	ジュウネ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	5末~10中	炒ってすりみそと混ぜてそばもち	白種子	中村イソ
NC940039	<i>Glycine max</i>	クロマメ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	5~10中	煮豆, 枝豆	黒種子, 黒目, やや莢小さい	中村イソ
NC940040	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	5~10上	-	黄色黒	中村イソ
NC940041	<i>Glycine max</i>	クロマメ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	5~10下	煮豆	黒種子, 黒目, 裂皮, 39番より莢, 粒大きく晩生	中村イソ
NC940042	<i>Glycine max</i>	キナコダイズ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	5~10中	きなこ, ずんだ	黄緑種子, 淡褐色	中村イソ
NC940043	<i>Glycine max</i>	エダマメ	農家圃場	青森県三戸郡三戸町大字貝守字滝ノ又, 270m	5播, 移植~7枝豆8中完熟	枝豆	黄種子, 白目, 十勝より導入, 矮性, 早生, 種皮薄く美味	中村イソ
NC940044	<i>Panicum mitaceum</i>	アワ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	5上~9上	もち, ご飯に混ぜる(2合にひとにぎり)	晴山・内城の実家より7~8年前に分譲, 茶, 白種子混, 観音林で精白(7kgで700円)	柴葉キヌ
NC940045	<i>Glycine max</i>	クロダイズ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	5上~10下	煮豆, 肥料, 枝豆	黒種子, 黒目, 丸粒	柴葉キヌ
NC940046	<i>Glycine max</i>	アオダイズ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	5上~10下	煮豆, 肥料, しとぎ, とうふ	緑種子, 褐色	柴葉キヌ
NC940047	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	5上~?	-	つるなし, 白種子, 細長まがたま粒	柴葉キヌ
NC940048	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	5中下~10上	あん	種子が小さくなってくるので, 村内で交換し種子の更新をする	柴葉キヌ
NC940049	<i>Perilla frutescens</i>	ジュウネ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	-	みそに入れたもちにつける	-	柴葉キヌ
NC940050	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	岩手県九戸郡軽米町大字下野場字嘉六, 310m	5下~	煮豆, 若美食	つるあり, 白種子, 丸粒	柴葉キヌ
NC940051	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	5中下~10下	あん, 赤飯	赤種子	助川万次郎
NC940052	<i>Glycine max</i>	クロマメ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	4下~10中	煮豆	黒種子, 丸粒	助川ヨシ
NC940053	<i>Glycine max</i>	アオマメ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	4下~10中	系統維持	緑種子, 黒目, 近所で昨年もらった, 種子色濃いが晩生	助川ヨシ
NC940054	<i>Glycine max</i>	マメ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	4下~10中	系統維持	黄種子, 白目	助川ヨシ
NC940055	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	5~10上	-	白莢, 晩生, 昔は早生, 中生もあった	助川ヨシ
NC940056	<i>Glycine max</i>	アオマメ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	4下~10中	しとぎ	緑種子, 淡褐色, 53番より早生, 昔から栽培	助川ヨシ
NC940057	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	5~10上	-	55番に混, 黒莢	助川ヨシ
NC940058	<i>Phaseolus coccineus</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	-	煮豆	白種子, 紫斑種子混(混ぜて植えると良い)	助川ヨシ
NC940059	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ジュウロクササゲ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	-	美食	つるあり, ベージュ種子, 細長粒	助川ヨシ
NC940060	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ササゲ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	-	美食	つるあり, 白種子, 丸粒	助川ヨシ
NC940061	<i>Phaseolus vulgaris</i>	トラマメ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	-	美食	つるあり, ベージュ地茶条種子	助川ヨシ
NC940062	<i>Phaseolus vulgaris</i>	テナシササゲ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字下名久井字上横沢, 285m	4~8播種, 2ヶ月で収穫	美食	つるなし, 白種子	助川ヨシ
NC940063	<i>Phaseolus mitaceum</i>	アワ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字烏舌内字中山, 245m	5上~9上	ご飯に混ぜる(昔はもち)	褐色種子, 乾燥調整が容易, 美味	中山イサオ(サト)
NC940064	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字烏舌内字中山, 245m	-	-	-	中山イサオ(サト)
NC940065	<i>Panicum mitaceum</i>	イナキミ, アワ, モチキミ	農家貯蔵	青森県三戸郡名川町大字烏舌内字中山, 245m	5上(八十八夜)~9上	ご飯に混ぜる	褐色種子, 農業なし	中山石太郎(タマ)
NC940066	<i>Fegopyrum esculentum</i>	-	農家圃場	青森県三戸郡南郷村大字中野字中野	-	-	-	-